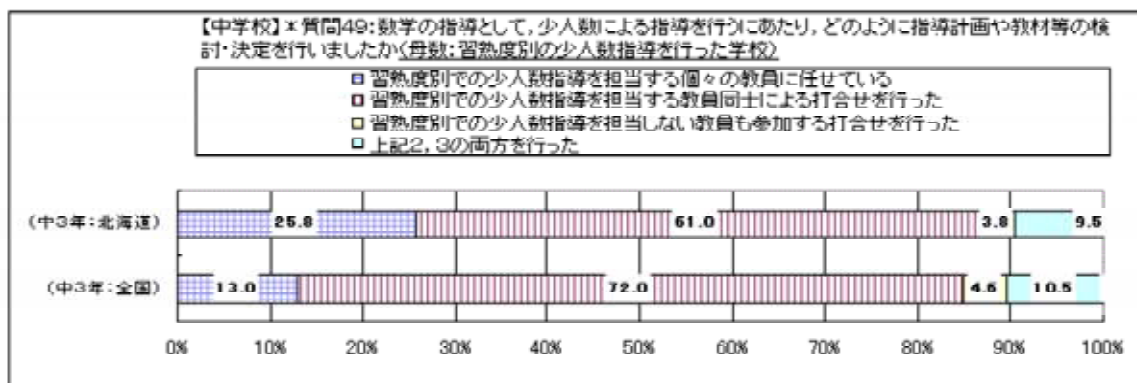
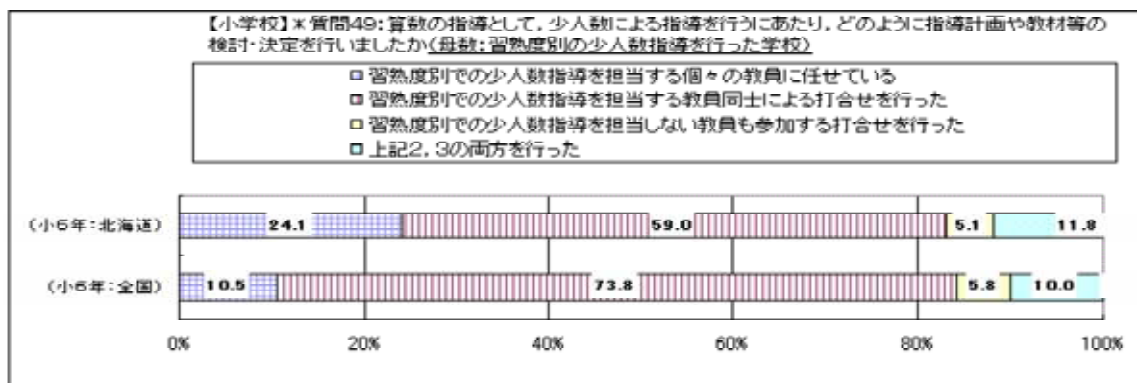


< 習熟度別少人数指導 >

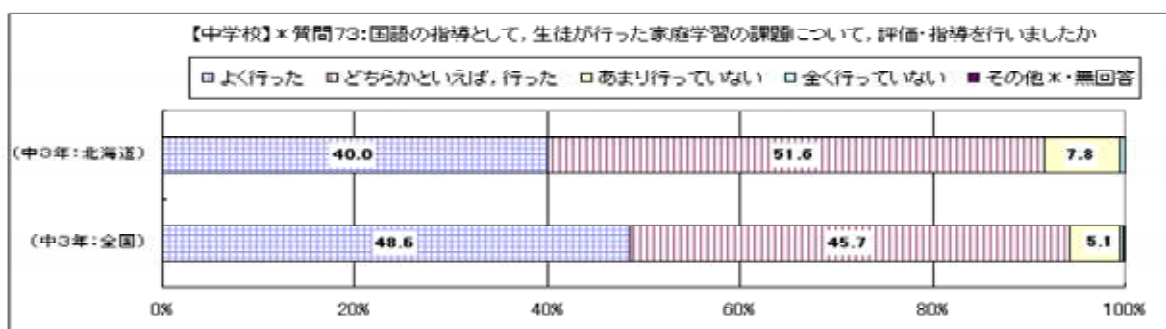
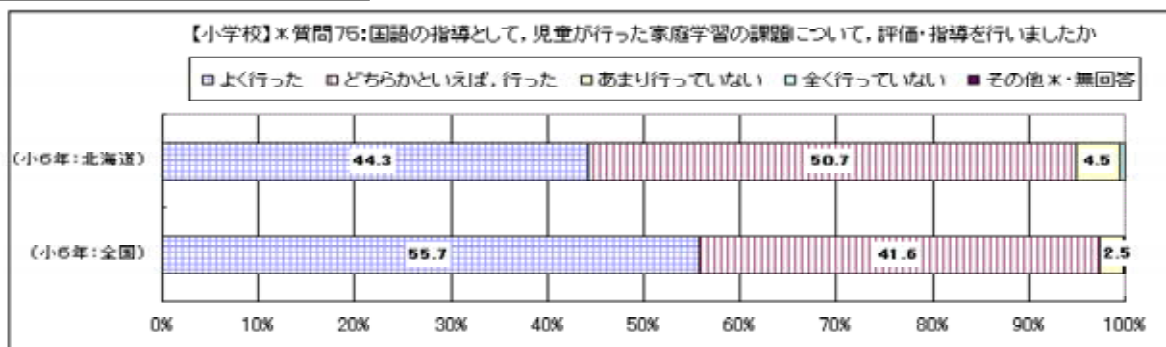
算数・数学の授業で習熟度別の少人数指導を行った学校においては、指導計画や教材等の検討・決定について、担当する教員同士による打合せを行った学校の割合が、小学校は59.0%、中学校は61.0%である。全国と比べて、小学校調査においては14.8ポイント、中学校調査においては11.0ポイント低い。

平成20年度全国学力・学習状況調査



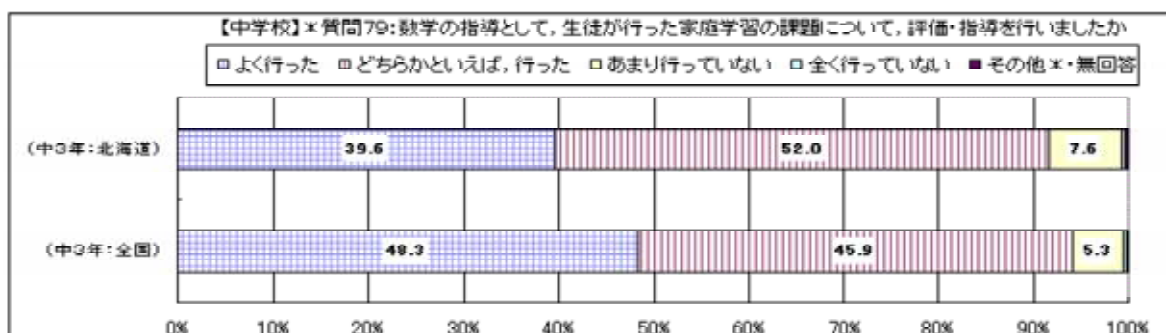
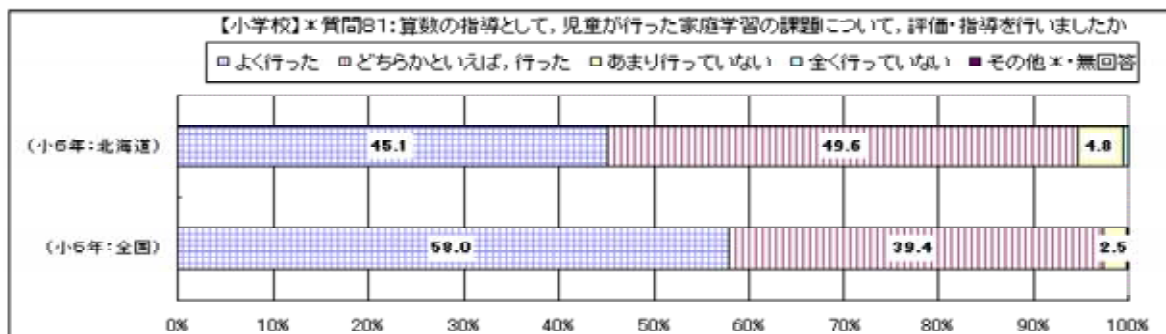
国語の指導として児童生徒に与えた家庭学習の課題について、評価・指導を行った学校の割合は、小学校は95.0%、中学校は91.6%である。全国と比べて、小学校調査及び中学校調査においては同様の傾向が見られる。

平成20年度全国学力・学習状況調査



算数・数学の指導として児童生徒に与えた家庭学習の課題について、評価・指導を行った学校の割合は、小学校は94.7%、中学校は91.6%である。全国と比べて、小学校調査及び中学校調査においては同様の傾向が見られる。

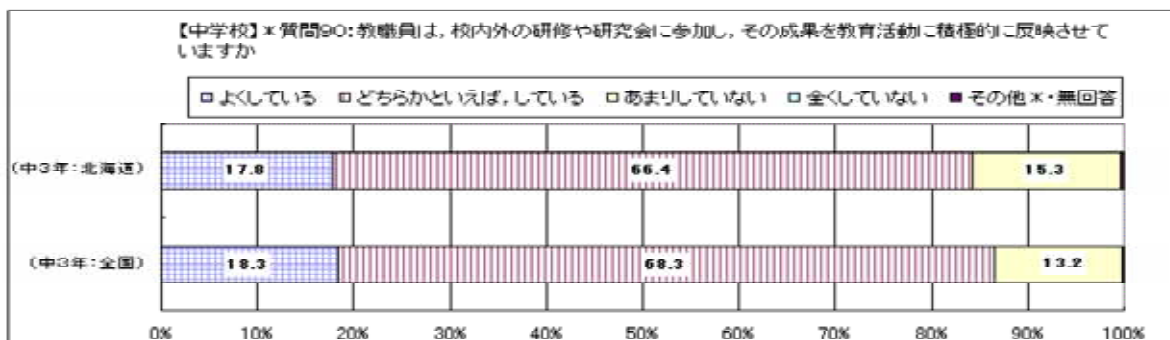
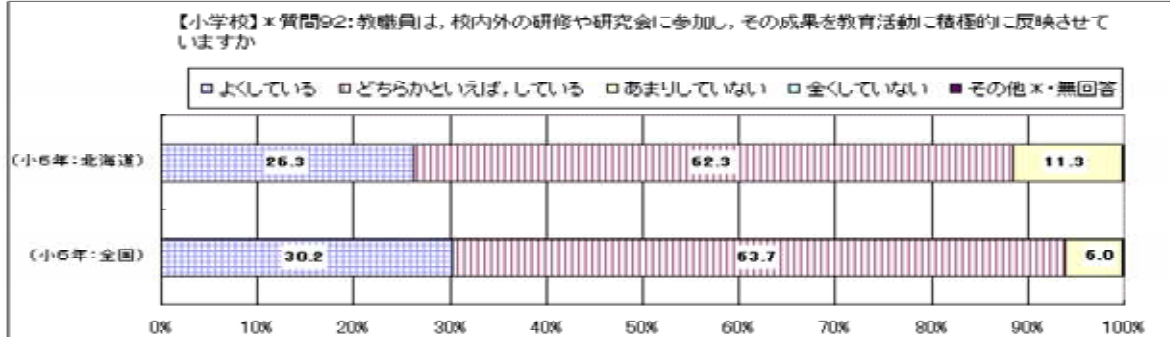
平成20年度全国学力・学習状況調査



< 教職員の取組 >

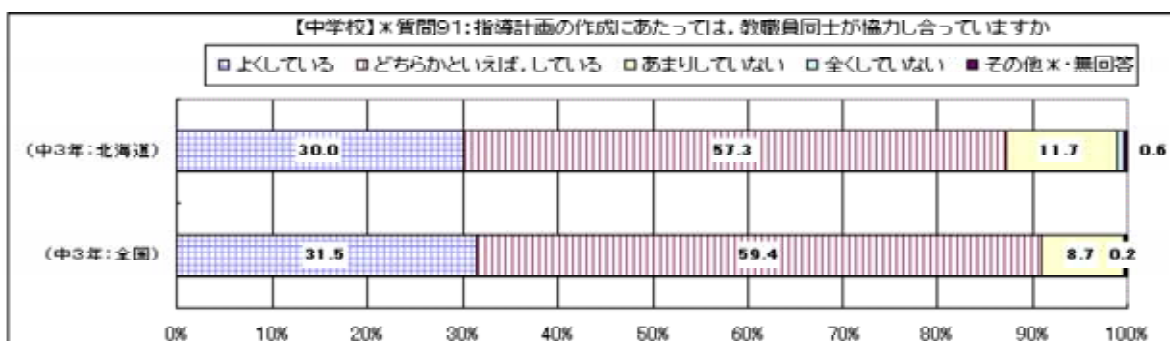
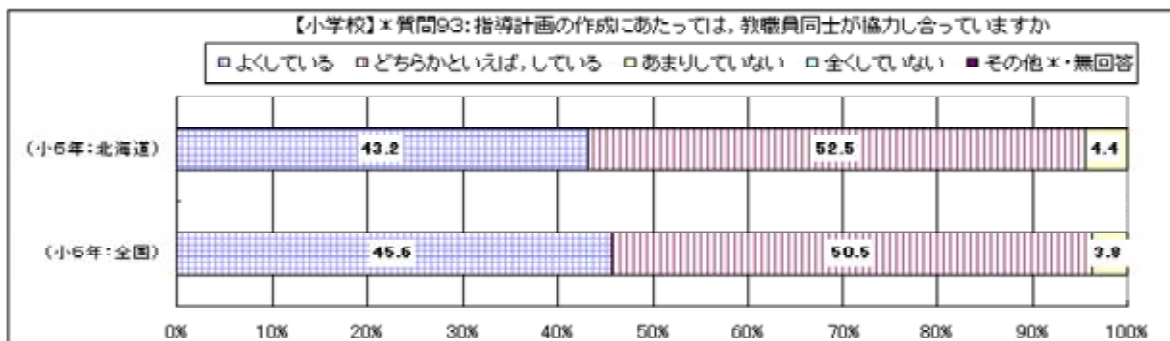
教職員が校内外の研修や研究会に参加し、その成果を教育活動に積極的に反映させている学校の割合は、小学校は88.6%、中学校は84.2%である。全国と比べて、小学校調査においては5.3ポイント低く、中学校調査において同様の傾向が見られる。

平成20年度全国学力・学習状況調査



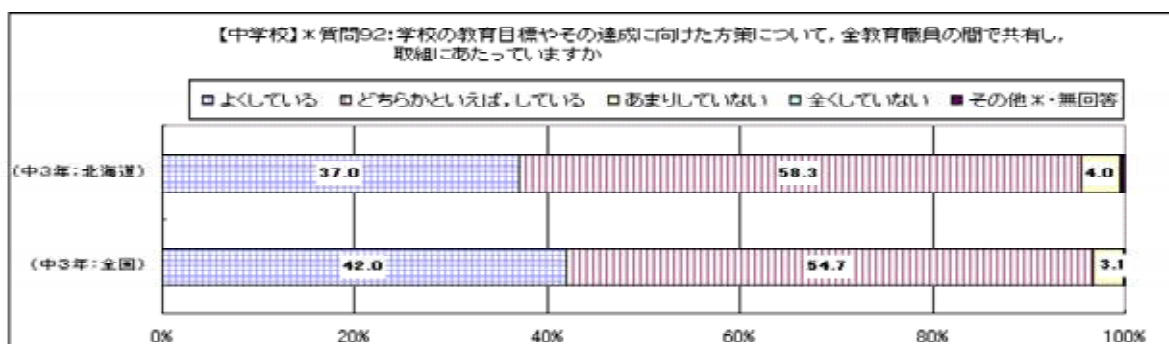
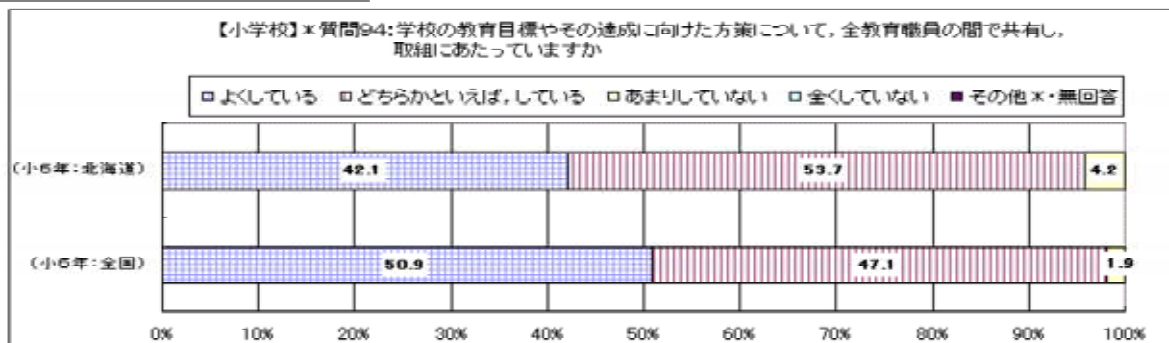
指導計画の作成にあたって、教職員同士が協力し合っている学校の割合は、小学校は95.7%、中学校は87.3%である。全国と比べて、小学校調査においては同様の傾向が見られ、中学校調査においては3.6ポイント低い。

平成20年度全国学力・学習状況調査



学校の教育目標やその達成に向けた方策について、全教職員の間で共有し、取組にあたる割合は、小学校は95.8%、中学校は95.3%である。全国と比べて、小学校調査及び中学校調査においては同様の傾向が見られる。

平成20年度全国学力・学習状況調査



平成19年度全国学力・学習状況調査の自校の結果を分析し、具体的な教育指導の改善に活用した学校の割合が、小学校は83.8%、中学校は77.7%である。全国と比べて、小学校調査においては4.3ポイント、中学校調査においては5.2ポイント低い。

平成20年度全国学力・学習状況調査

